

## 「インカレにおけるトラブルについて」

大会実行委員長 大平 晃久

### 1. 選手の役員宿舎（競技会場）への侵入

3月7日、役員宿舎でありリレー会場（トレイン内）である奈良県立青少年野外活動センターに、早稲田大学の選手が入り込むということが起こった。これは実施規則第27条により失格となる行為である。

実行委員会ではその翌日、選手本人とチームオフィシャルを呼んで事情を聞いたが、選手側は「モデルイベント会場と間違えて役員宿舎に入ってしまった」との主張であった。

実行委員会の判断と処分は次のとおりであり、3月8日の代表者ミーティングにおいて報告した。なお、この判断と処分には大会コントローラーの助言および裁定委員の同意を得ている。

選手の行為は故意に因るものではないと判断される。しかしながら、プログラム（リレー会場名が記載されている）およびモデルイベントの地図をみさえすれば、名称の誤解はあっても、少なくとも役員宿舎（リレー会場）に行くことは考えられない。また大会要項2において立入禁止区域は発表されている。

さらに、この選手は役員が競技用地図の仕分けを行っている部屋にまで立ち入りしており、地図ないしはその拡大コピーを目にした可能性は否定できない。

以上を勘案すると、過失としては相当に大きく、相応の処分を行わざるを得ず、実施規則に従ってこの選手を失格とした。ただし、参考記録としてクラシックでは全選手スタート後に、リレーではスプリントクラスと同時に出走させた。

各選手には、今後プログラム、要項を熟読して大会（インカレに限らない）に臨むことをお願いしたい。また各学校（クラブ）でもこうした指導が徹底されることを厳に求めたい。

### 2. 講習会における会場の無断キャンセル

本件はインカレそのものに伴うトラブルではないが、講習会の性格およびこのトラブルの重大さから本報告書に記載し、広く周知するものである。

インカレ後に連盟事業部の主催でインカレ講習会が開催され、3月11日にはリレー会場であった奈良県立青少年野外活動センターを会場としてトレーニングを行うことになっていた。ところが、事業部では前日になって予定を変更して同センターを利用しないことになったうえ、当日、予定時刻を大幅に過ぎて同センターに初めてその旨を伝えた。当然、実行委員会側にも一切連絡はなかった。

この非常識な行動に対して、同センターから厳しい叱責をうけ、反省会を開いた上で、内容などをまとめて所長宛に手紙を送るよう指導された。また、実行委員会にも謝罪を求められた。

実行委員会では、事業部とともに2度にわたって同センターに伺い、謝罪を行った。その結果、今後同センターをオリエンテーリング目的で利用できなくなるという事態は避けら

れたと判断している。

この件は、ただ事業部の無断キャンセルというだけの問題ではない。その伏線として、実行委員会が同センターを利用するに当たって、センターからさまざまな注意を受けたという経緯があり、それらは本質的に同一の問題である。

一言で言えばそれは、「利用される側」のことを考えた利用、という視点が欠けていたということである。選手・観客の誘導のために通路を仕切るとき、どこまでセンターに確認していたか、敷地の林を競技中の選手に通らせるとき、そこがセンターにとっては大切な庭のような場所であることをどこまで考えていたか、具体的にはそういうことになろう。もちろんこれはただ施設利用に限られるわけではない。私有林をオリエンテーリングのために使わせていただいているということも、まったく同じ質の問題である。実行委員会としてはこのような問題を十分に認識していたつもりであった。しかし、結局は「利用する側」の目でしか考えられていなかったことを痛烈に反省させられた。

各人、各校においても、今一度これらオリエンテーリング競技の存立にかかわる問題を、真剣に再考されるようお願いする。